

# 補綴物の長期的安定を目指すために欠かせない要素

武居 純 タケスエ歯科医院

出身大学院： ポストン大学歯学部 補綴学

## 講演抄録

歯科医療に携わっている限り、誰もが自分が治療した歯は長期的に安定した姿でいてほしいと願うのは当然である。そして患者に「抜かれない」と言われれば、何とかその歯を救いたいと考えるのも自然である。

しかし私たちは、補綴設計を行う時に「疑わしき歯を抜歯するか保存するか」で頭を悩ます場面が多い。

私は極力「天然歯を守る」ことを大前提に、補綴設計を含めた治療計画を立てている。

もちろんそれは患者のモチベーションや価値観に左右されることが多いが、患者が「抜かれない」と考えている限り、その歯をいかに最大限に活用できるか、またがその歯が天寿を全うした後のバックアップも含めて、長期的に安定した姿を目指している。

ここでは、私が大切にしている基本的な補綴学的な要素から、患者の真の健康増進までを考慮した、治療計画の立案の仕方から実際の治療方法、そして一生涯のお付き合いを前提としたメンテナンスシステムについてお話したい。